

tō d a



灯台 5

2023 No.752

未来を照らす教育誌

特集

心もスッキリ!

かんたん掃除術

夏井いつきの「今日から一句」

谷けいじの
美的健康エクスサイズ

子どもの食物アレルギー
基礎ガイド



高齢者も子どもも みんなが「幸せ」になる 社会を目指して



株式会社CLOVER 代表取締役 香丸俊幸さん

「人生100年」と言われる時代。年を重ねてからも、心身共に健康に、豊かな時間を過ごしたいものです。そこで、利用者が元気になり、幸せになるデイサービスづくりに挑戦している、香丸俊幸さんに話を聞きました。

行きたくなる！
おしゃれな介護施設

「香丸さんが、デイサービス事業を始められたきっかけを教えてください。」

私の母親は小料理屋を経営し、父親もエンジニアで独立。ほかの親戚も自分で経営をしているという環境で育つたので、「将来は自分で起業する」ということが当たり前だと思ってきました。

企業に就職した後、経営コンサルタントとして独立。その時に、介護という業界に出会いました。介護施設の立ち上げに関わり、さまざまな施設を見て回ったのですが、その労働環境は決してよいと言えるものではなくて。ホスピタリティーの面でも、不十分



デイサービス「クローバー学芸大学別邸」のキッチン

だという印象を持ちました。

自分だったら、この業界でもっといいサービスができる」と思い、起業したんです。

「都心を中心に、複数のデイサービス事業所を展開されていますが、おしゃれな施設ばかりですね。」

カフェや温泉旅館、バリ風のホテルをモチーフにして、

のです。

キャストは子連れ出勤ができるのですが、500mlのペットボトルを持たなかったキャストが、子どもをニコニコしながら抱っこしていることがありました。子どもとの関わりが、生活機能の回復につながった瞬間でしたね。

子どもを伸ばす クローバーキッズ

発達障害のある子ども



片づけの時間も、笑い声が響く

利用者がおでかけ気分ではなく、と一息つけるような、おしゃれな空間づくりを目指しています。街のカフェに立ち寄るような感覚で通うことができれば、楽しみながらデイサービスを利用できますよね。

また、私たちの施設では、介護を受ける方を「ゲスト」、介護を担当するスタッフを「キャスト」と呼んでいます。以前はデイサービスに行くことを嫌がっていた方が、当施設に通うようになって、今ではメイクをして玄関で迎える車が来るのを待つようになりました。——「デイサービスを提供しているうえで、大切にされていることは何ですか？」

「デイサービスの目的は、「自立支援」「社会参加」「家族の

負担軽減」の3つ。このうち、最も重要なのが「自立支援」です。具体的に言えば、ゲストの方には役割を担っていただきます。人の役に立っていることを実感できると、それが生きがいになり、心身共に元気になるのです。

役割の例としては、食器を拭く、洗濯物をたたむ、掃除機をかけるなど。書道の経験があるゲストには、書道教室を開いていただいたり、大工だったゲストには、DIYをしていただくことも。元々亭主関白で、今まで家事を一切やらなかった方が、自宅でも家事を手伝うようになったこともあって、ご家族が驚かれています。

「ゲストの方は、1日どのように過ごされるのですか？」

ようか？

施設に到着されたら、まずは健康チェックとアドバイスを行います。その後は、入浴や体操、レクリエーションを。昼食の時間は、ゆっくりお好きなペースで、楽しく過ごしていただきます。

午後は、「お昼寝」「何もしない」も活動の一つです。趣味に没頭したり、外へ散歩に出かける方もいます。夕方から夜にかけては、延長、お泊まりも可能です。

「リハビリなどもされるのでしょうか？」

何か特別なトレーニングをするというよりも、「生活リハビリ」を重視しています。トイレや着替え、洗顔や歯磨きなどの日常生活の動作自体を、リハビリとして捉える

たちを対象とした、放課後等
デイサービス「クローバーキ
ッズ」も展開されています。

クローバーのビジョンは、「人が集まる幸せなコミュニ
ティーづくり」です。世代や
障害の有無などを超えて、多
様な人々が同じコミュニティ
のなかで生きていけること
を目指しています。放課後等
デイサービスも、その一環な
んです。

放課後等デイサービスは、
一般的に「預かり型」と、勉
強や運動を専門的に教える
「専門特化型」の2パターン
がありますが、クローバーは
両方兼ねた「総合型」です。
100マス計算などの学習
支援や運動、遊び（レクリエ
ーション）も行います。
一人ひとりの特性に合わせ

て、児童発達支援管理責任者
が中心に支援プランをつくり、
具体的な目標を立てて進めて
いるのです。

——子どもたちと関わる時に、
キャストが心がけているのは
どんなことでしょうか？

将来の「自立」を最終的
な目標にしています。

子どもの可能性は無尽大
です。勉強、運動、遊び、さま
ざまな分野に、その子の「得
意の芽」があります。子ども
たちに、楽しみながらさまざま
な活動を経験してもらいな
かで、「できないこと」に注
目するのではなく、「できる
こと」得意「自信」を一緒に
見つけ、増やしていく。それ
によって、クローバーキッズ
が安心して成長できる場所、
つまり「居場所」になり、自

も、高齢者と接し、かわいが
ってもらうことで、自尊心や
社会性が育まれ、「WIN-
WIN」の関係構築ことが
できるのです。
ここでエピソードを2つ紹
介します。1つ目は、周りの
人とうまくコミュニケーション
が取れなかった、小学生の
Aさん。クローバーでおばあ

ちゃんたちと交流を重ねるう
ちに、クローバーからの帰宅
後、その日の出来事を家族に
話すようになったそうです。
そしてある日、乗っていたバ
スのなかで自発的に、「おば
あちゃん、ここに座って」と、
席を譲るようになりました。
2つ目は、施設に到着して
数時間経過すると、いつも

「そろそろ帰らない」とそ
わそわして玄関周りを歩き回
っていた、高齢者のBさん。
子どもたちと交流するようにな
ってからは、子どもたちか
ら「もっと遊ぼうよ」と声
をかけられることで、帰ら
なくて「という不安が抑え
られるようになりました。」
——今後の展望を教えてください

己肯定感も高まります。



Profile

こうまる・としゆき ●東京都出身。株式
会社セブンイレブン・ジャパン、株式
会社ベンチャー・リンクを経て経営コン
サルタントとして独立。IT企業や外食企
業の役員などを歴任し、2010年に株式
会社CLOVERを創
業。「人が幸せに
なるコミュニテ
ィづくり」をコ
ンセプトに、地域密
着型のデイサービ
スや放課後等デイ
サービスなどの経
営を行っている。



クローバー
グループHP

いいことづくめの 世代間交流

——東京都目黒区にある「ク
ローバーキッズ学芸大学」は、
子どもたちと高齢者が交流で
きる「共生型」の施設になっ
ていますね。

1階が高齢者デイサービス、
2階が放課後等デイサービス
という施設で、世代間交流が
できるようになっていきます。
コロナ禍になってからは、

感染予防のために交流はあま
りできていなかったのですが、
以前は、一緒にお菓子づくり
や体操をしたり、絵本を楽し
んだりしていました。
高齢者は、子どもたちと関
わると、どんどん元気になっ
ていきます。子どもにとって

ださい。

コロナがようやく落ち着い
てきたので、世代間交流の活
動を徐々に再開したいと思っ
ています。それから、全国に
事業所を少しずつ増やしてい
きたいと思っています。

さらに、群馬県高崎市では
現在、「シェアハウスクロー
バー」を展開しています。こ
れは、障害のある方が必要な
サポートを受けながら自立生
活をしていく、共同生活コミ
ュニティーです。この高崎の
地で、障害のある方の就労支
援もしていきたいと思ってい
ます。

私たちは、これからもケア
事業を通して、ゲストの方々
とご家族、そして施設で
働くキャストたちの「幸せ」
を追求し続けていきます。

1日の過ごし方の例

デイサービス「クローバー」

8:00	自宅までお迎え
9:00	到着、健康チェック、 アドバイス
10:00	入浴、体操、 レクリエーションなど
12:00	おいしい昼食
12:30	お昼寝、散歩、 趣味を楽しむなど
15:00	送迎車で帰宅

放課後等デイサービス 「クローバーキッズ」

学習だけでなく、好きなことを自由に
やりたいCさんの場合（平日）

14:00	先生とやりたいことを相談し ながら楽しむ（散歩、お買い 物など）
15:30	教室で、低学年のお友だちの お姉さんとして活躍！
17:30	みんなで夕食
18:00	個別学習
19:00	お迎えで帰宅